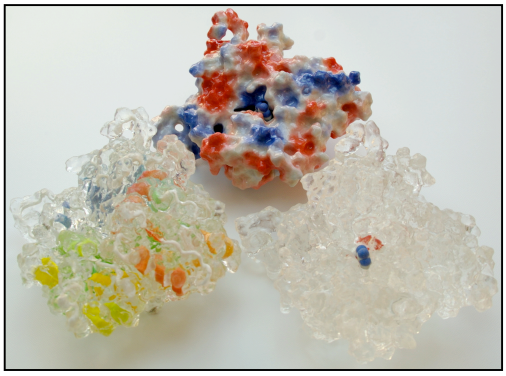
2013 年　生体運動研究合同班会議　報告記

2013 年 1 月 12 日（土）～14 日（月）、広島大学において、表題の研究会が開催されました。「運動マシナリー」の計画班の全てのグループが参加し、各グループの研究内容を口頭で紹介しました。本領域総括班連携研究者の川上さん（北陸先端大）が作製したアクチンの分子模型（右図）とポスターを「ゲリラ展示」しました。こちらも大盛況でした。



各グループの出席者から、会に参加しての感想を頂きましたので、以下に記します。

[A01]反復

宮田代表（大阪市大）：本領域は、原核生物と真核生物の生体運動分野の垣根をなくすことをひとつの目標としています。“生体運動合同班会議”は、1955 年から筋肉と非筋（真核）細胞運動の議論の場としての重要な役目を担ってきました。今回、領域計画班の原核生物運動の研究者にご参加いただけたことで、一歩だけですが領域がその目標に近づけたように私は感じました。懇親会のスピーチでは、会議大御所で東大名誉教授の若林健之先生から、私たちの参加に対する歓迎の言葉をいただきました。

宮田班、西坂研（学習院大）博士研究員(34 歳):運動マシナリーと班会議の趣旨が一致しているように思います。そして、この班会議では運動マシナリーの勢いと魅力を十二分に感じ取ることができましたし、私自身刺激を受け、領域に是非とも参加したいと思いました。今回の会議では領域の紹介が主目的であったと思いますが、このまま

班会議を乗っ取る勢いで多くの研究者を巻き込み、活性化していくと感じました。

宮田班、西坂研（学習院大）大学院生(24 歳):今回私は初めて生体運動合同班会議にて発表し、その際、領域の方を含む先生方からの質問をいただきました。発表後も、懇親会にてたくさんのフレンドリーな研究者と議論ができて、とてもいい経験が出来ました。生体運動合同班会議は一つの会場で行うことから、アットホームな感じがとてもよかったです。この会を励みに、いっそう研鑽を積み、来年も必ず参加させていただきたいです。

森（京大）:宮田代表のお誘いもあり、本研究会に初めて参加しました。１）若い大学院生の方々とご年配の先生達が、同じ土俵で研究成果を発表し意見を闘わせておられる姿は非常に新鮮で、「歴史ある会ならでは」と感心しました。２）川上さんの分子模型に直接触れて、実際にタンパク質を触って得られる情報の多さに感銘を受けました。我々のグループも SecDF の模型を現在作製中です。完成しましたら、お披露目しますので、是非触ってみて下さい。３）お世話頂いた広島大の細谷先生の細かな心配りに篤く御礼申し上げます。

[A02]回転

本間班、小嶋（名大）:運動班会議には初めて参加しました。細菌べん毛の研究者は、直近の国際会議に出席するため、これまでこの会議には出席してこなかった経緯があります。今回は細菌べん毛の発表が複数有り、存在感を示せたのではないかと思います。

７分発表で非常にたくさんの話題が提供され、古株の先生から大学院生まで、様々な層の発表があり、ショーケースを楽しむような感覚で新鮮でした。生物物理学会でおなじみのみなさんが参加されていることもあり、すんなりなじめました。感心したのは、オーガナイザーの細谷先生をはじめとする事務局の皆さんがすごく丁寧な運営をされていたことです。領域の会議でもこのようなホスピタリィーが提供できればいいなと思いました。

本間班、南野（阪大）：宮田代表の強いご要望があり、今回初めて参加させて頂きました。また、広島大学が母校であること、西條という町で作られたお酒が好きであったことも、参加を決めた大きな要因でもありました。プ ログラムを見た時には、あまりにも演題数が多くて仰天しました。実際に参加してみると、サイエンスは確かに素晴らしかったのですが、たくさん演題があったにもかかわらず、ほぼ時間どおりに進んだことが何より一番感銘を受けました。非常に丁寧にきちんとオーガナイズされた素晴らしい会だと思いました。学生時代に慣れ親しんだ西條のお酒、最高でした！

伊藤（東洋大）：初めて参加させていただきました。7 分発表、3 分質疑で各グループから１名は発表するというシンプルなルールでしたが、発表内容はなかなか濃いものでした。懇親会や休憩時間に参加者の方たちと話をさせていただきましたが、古くからの参加者の方にとっては同窓会的雰囲気もあるようで、よい雰囲気を継承していることがわかりました。新参者も温かく受け入れてくださった気がします。

[A03]複雑系

中山班、佐藤（長崎大）：生体運動班会議にはじめて参加しました．１グループの発表の持ち時間が１０分弱という短い時間でしたが、その分、数多くの演題を聞くことができました．１０分弱に濃縮された演題は分野も色とりどりで、所属する医療系の分野では聞くことのできない興味深い内容ばかり、「へぇー」と思っているうちに、あっという間に２日間が終わってしまいました．歯周病細菌のプロテアーゼ分泌という、班会議名とは離れた内容にも関わらず、時間一杯質問をもらい、只々有難かったです．

福森（金沢大）：今回、初めて参加しました。発表時間が短く、発表者の大学院生は、取りまとめるのに苦労していました。今回は、磁性細菌という真核生物研究者には耳慣れない細菌の紹介と磁性細菌だけが保有するアクチン様タンパク質に関する研究を紹介しました。磁性細菌の不思議さや面白さはあまり理解されなかったのかもしれませんが、ビデオで磁性細菌が磁石のＮ極、Ｓ極に反応する動きを見せたとき、聴衆が少しざわめいたのがうれしかったです。「百聞は一見に如かず」のことわざを実感した次第です。また、学生時代の先輩や若手の頃にお世話になった先生方に数十年ぶりでお会いできたのは大変うれしかったです。

上田（産総研）：今回の生体運動合同研究班会議は、地方開催ということもあり昨年より発表件数が若干少なかったものの、われわれの新学術領域からの発表が増えたこともあり、これまでよりバラエティーが広がっていたように感じました。自分自身の計

画研究との関連でいえば、九州工業大学の安永教授らのグループが、神経細胞軸索先端の電子線トモグラフィー観察を行い、細胞内のアクチンフィラメントのらせんピッチを実測されていたのが大変印象に残りました。